

**龍谷大学世界仏教文化研究センター
開設記念事業 特別講演会**

講演名	世界の苦悩に向き合う仏教の可能性～共に生きる道はどこに～
開催日時	2017年1月29日(日) 13:00～17:00
場所	龍谷大学深草学舎顕真館講堂
講演者①	池上彰氏(ジャーナリスト・名城大学教授)
講演者②	竹村牧男氏(東洋大学学長)
鼎談者	池上彰氏×竹村牧男氏×赤松徹眞氏(龍谷大学学長)
モデレーター	若原雄昭氏(龍谷大学副学長)
司会	鍋島直樹氏(龍谷大学世界仏教文化研究センター副センター長)
開会挨拶	赤松徹眞氏
来賓挨拶	門川大作氏(京都市長)
謝辞	能仁正顕氏(世界仏教文化研究センター長)
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター
後援	京都府、京都市、朝日新聞京都総局、読売新聞京都総局、毎日新聞京都支局、日本経済新聞社京都支社、共同通信社京都支局、産経新聞社京都総局、京都新聞、中外日報社、文化時報社(順不同)
参加人数	500名

特別講演：世界の中で宗教を考える

講演者：池上彰氏(ジャーナリスト、名城大学教授)

時間：13:20～14:30

【講演のポイント】

池上氏によって、主に以下の内容の講演がなされた。

- 1 世界の宗教の現状—エルサレムの歴史を中心に—
- 2 バチカン市国、ブダガヤ他「聖地」訪問
- 3 アメリカ大統領選挙—トランプ、ヒラリー、サンダースの政治集会取材を通じて—
- 4 グローバリズムと国境—EUの歴史等を踏まえて—
- 5 移民問題、産業の空洞化をめぐって
- 7 ドナルド・トランプの発言—グローバリズムと保護主義—
 - 7-1 メキシコとアメリカとの壁をめぐって
 - 7-2 就任演説について
- 8 新約聖書、旧約聖書
- 9 ユダヤ人の定義、戒律
- 10 エルサレムへのアメリカ大使館移転に対する懸念
- 11 日本人の宗教観について
- 12 宗教の働きについて
- 13 憎しみの連鎖を留めるための「慈悲」

【講演の概要】

講演の詳細は別途公開予定。

講演：現代社会の動向と仏教の可能性

講演者：竹村牧男氏(東洋大学学長)

時間：14:50～15:50

【講演のポイント】

竹村氏によって、主に以下の内容の講演がなされた。

- 1 自己紹介 特に井上円了と東洋大学の紹介
- 2 現代社会の動向Ⅰ 絶対的なものの喪失と価値観の拡散
- 3 現代社会の動向Ⅱ グローバリゼーションと保護主義の台頭
- 4 現代社会の動向Ⅲ ICTおよびAIの普及・浸透と人間への深い問い
- 5 仏教の可能性Ⅰ 空性としての絶対者、縁起観・無我観、覚への道
- 6 仏教の可能性Ⅱ 特に縁起の見方について
- 7 仏教の課題 自由と主体性の復権を目指して

【講演の概要】

講演の詳細は別途公開予定。

鼎談

鼎談者：池上彰氏×竹村牧男氏×赤松徹眞氏(龍谷大学学長)

モデレーター：若原雄昭氏(龍谷大学副学長)

時間：15:55～16:55

【鼎談の概要】

若原氏がモデレーターとなり、池上氏、竹村氏、赤松氏による鼎談が行われた。

赤松氏は、憎悪を克服し利害対立を解決するような仏教の可能性、特に身体を用いた活動の重要性が述べた。続いて、池上氏によって日本の仏教を海外へアピールしていくことの重要性が述べられた。また臨床宗教師の活動への期待が語られた。竹村氏は、現在、仏教とキリスト教の対話が進んでいる一方で、仏教とイスラム教、仏教とユダヤ教との対話はまだまだあまりなされていない印象を受けていることを述べた。また仏教とエコロジーの関係、東洋大学の取り組みなどが語られた。池上氏は、今後、諸宗教間で「慈悲」をキーワードに対話ができる可能性を示唆した。そして、人智を越えた存在に対する畏怖という点から、宗教観対話は可能ではないかとも述べられた。また SNS が発達し、スピード重視の現代だからこそ「もっとじっくり考える」ということが大事であることが述べられた。最後に、池上氏より「世界の苦悩」とは何かについて総括がなされた。精神的な苦悩、物質的な苦悩に対する仏教の役割について、我々一人ひとりが今後十分に考えていく必要があることが述べられた。

鼎談の詳細は別途公開予定。

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センターPD 唐澤太輔